

## まえがき

「罵声、怒号が聞こえない練習風景は、初めてです」

僕が主宰するバレーボール教室を見学に来ていた保護者の方々は、皆いちようにそう言ってくれます。

いまだに「指導」という名目で、体罰や言葉の暴力といった間違ったやり方がまかり通っているスポーツ指導の現状。そんな時代遅れな指導方法をなんとか変えたいと、ずっと思ってきました。

この本を手にとってくださったあなたも、もしかしたら僕と同じ思いなのかもしれません。はっきり言えるのは、「**一番の問題点は、指導者がスポーツの指導方法を知らない**」ということです。

学校の部活動でも、地域のスポーツクラブにおいても、正しい指導方法を学び身につけた指導者はほんの一部の人だけで、大半は自分の経験だけに頼り、我流で独

り善がりなやり方を押し通しています。その結果、子どもたちは離れていき、保護者からの信頼も失い、子どもたちのスポーツ環境は悪くなる一方です。

僕が主宰する「気づいて築くバレーボール教室」では、現在約70人の中学生が、そして小学生のクラブチームでは約40人の小学生が楽しく汗を流しています。いずれも、宣伝も勧誘もほとんどしていませんが、保護者のクチコミで「子どもの主体性を引き出してくれる」と評判になり、今では行列のできるバレーボール教室になりました。

たとえば中学生の場合、土日を含め、平日でも夜の7時〜9時までの練習が月に10回ほどありますが、ほとんど皆勤賞の子どももいます。みんな、塾や習い事で忙しいはずなのに、僕の教室には親から「行きなさい」などとひと言も言われなくても、みんな喜んで来てくれていたみたいです。

でも、そういう自分も、かつては他の指導者と同じように、厳しく強制的な指導方法を行っていました。そして、そんな自分を変えるきっかけになったのがコーチ

ングとの出会いです。指導の軸足を「教える」「指導する」から「子どもの主体性を引き出す」ことに移してから、彼ら彼女らの表情がみるみる変わっていくのが実感できました。

現在、僕はシン・リーダーコーチングの代表として、企業の経営者や従業員、教育者、スポーツ選手などを対象に、コーチングを通じて自分の可能性をさらに伸ばすお手伝いをしています。ほんの6年前までは、ある電機メーカーでエンジニアとして勤務するサラリーマンでした。

会社勤めの傍ら、平日の夜や土日の休みの日に、自分の出身中学のバレーボール部でボランティアコーチとして活動していました。そして請われるまま、地域の小学生のバレーボールチームも手伝うようになり、さらには、保護者からの切なる要望で自分自身でバレーボール教室を開くことになりました。

コーチングの手法を取り入れた指導方法は、「認めてあげること」「じっくりと聞

いてあげること」と、いたってシンプル。そう言うと、「そんな甘っちょろいやり方で本当に子どもを指導できるのか？」と、多くの指導者は疑問に思われます。でも、僕が指導した子どもたちが京都府下の大会で優勝したり、中にはVリーグ（日本のバレーボールのトップリーグ）で活躍する選手もいたりして、確実に成果が表れています。

そんな彼らの成長がうれしくて、今でも仕事の傍ら週に3日は子どもたちの指導に汗を流しています。

この本は、僕のようなスポーツ指導に携わる人はもちろん、学校の先生や企業の管理職など、人を育てる立場にある方々に広く読んでいただきたいと思っています。「愛情を持って育てる」などといった抽象論ではなく、具体的なノウハウを惜しむことなく盛り込んでいますので、きつとお役に立てるはずですよ。

そして、ぜひ僕のバレーボール教室に見学にきてください。百聞は一見にしかず。実際に子どもたちが楽しそうにイキイキとスポーツを楽しんでいる姿を、ご自分の

目で見えていただきたいと思います。

多くの指導者が「自立した子どもを育てたい」と思っています。そして多くの保護者も「スポーツを通じて自立した人間になってほしい」と願っています。双方の思いが実を結ぶ、そのためのメソッドを多くの方に知っていただきたいと思います、この本を出版させていただくことにしました。